―ご使用時に守ってほしいこと―

動物駆逐用煙火の使用、その前に!

動物駆逐用煙火を使用する際は、
事故や怪我の発生を防止するため、
以下の点によく注意して取り扱ってください。

1. 玩具用煙火との違いを知っておきましょう

動物駆逐用煙火と玩具用煙火は、火薬の量や種類が異なります。
また、同様の理由から、爆発したときの威力も大きく異なります。

- **動物駆逐用煙火**

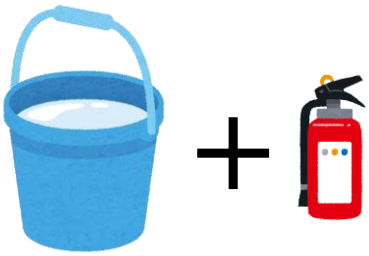
  火薬量が多く大きな音が出せる。
  暴発時の危険性が大きい。

- **玩具煙火**(ロケット花火など)

  火花を多く出しながら飛ぶ。
  引火の危険性が大きい。

2. 消火用品(水を張ったバケツ)を用意しましょう

煙火は、火薬類の一種です。
予期せぬ失火や事故を防止するために、使用の際には
必ず水を張ったバケツを用意してください。
バケツの水は、煙火の2/3が浸るほどあると理想です。
消火器も併せて用意しておくと、より安全です。
使い終わった煙火は、水に浸しましょう。



3. 発射回数をよく確認しましょう

煙火は、商品ごとに発射回数(装填されている弾数)が決まっています。
使用前には必ず回数を確認し、使用中は発射回数を数えてください。
発射回数は、煙火本体のどこかに必ず記載があります。

※回数分の弾が発射されないときは、不発または遅発の可能性があります。
※しばらく発射体勢を維持しても発射されなかった場合は、速やかに煙火を水に浸してください。
※水に浸した煙火は、1週間ほど浸したままにした後、指定された方法で処分してください。

お問い合わせ先:大熊町　農業振興課　農政係
電話番号:0240-23-7137（平日8:30～17:15の対応となります）

裏面へ

4. 必ずホルダーを使用しましょう

煙火が暴発した際、筒の中で火薬が爆発し、手指を怪我する危険性があります。
暴発から手指を守るために、**煙火を使用する際は、必ずホルダーを使用してください。**
事故の多くが、ホルダーの不使用によるものです。
ゴーグルや手袋、耳栓があると、より安全です。

※ホルダーの正しい使い方の詳細は、担当者にお問い合わせください。

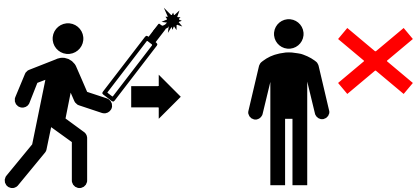
5. 火が揺らがない道具で着火しましょう

着火の際、普通のライターやマッチを使用すると、風の影響で火が揺らぎやすくなります。
思うように着火できずに事故になってしまう危険を避けるため、**着火の際は、風の影響を受けにくいターボライターや線香等を使って行いましょう。**

※オイルライターや多目的ライターを使っての着火も、風の影響を受けやすいため、推奨されません。
※線香を使って着火する場合は、蚊取り線香のような厚みのあるしっかりしたものを選びましょう。

6. 人に向けないようにしましょう

使用の前に周辺確認を徹底し、絶対に筒先を他人に向けないでください。
また、着火時に発射口を自分に向けないよう注意してください。
点火後、しばらく経っても発射されない場合、覗き込まないで下さい。遅発の可能性があります。
複数人で使用する場合は、隣の人とは20m以上の間隔を取りましょう。



7. 燃えやすい物がある場所では使わないようにしましょう

発射先に燃えやすい物がある場合、引火して火災が発生する危険があります。
発射先に乾いた草木や燃えやすい素材がないかをよく確認してください。
また、使用後は、発射先まで足を運び、火がくすぶっていないかの確認も行いましょう。
乾燥する時期は、特に入念に確認が必要です。

お問い合わせ先:大熊町　農業振興課　農政係
電話番号:0240-23-7137（平日8:30～17:15の対応となります）

2枚目へ

県内でも

起きています!!
煙火使用中のこんな事故

実際の事故事例を知り、正しい方法での運用を常に心掛けるようにしましょう

1. ホルダーの未使用による事故

事例①
【平成26年7月12日】 福島県
クマの追い払いのため手持ち用ホルダーを使用せずに動物駆逐用煙火を使用したところ、製品が暴発。
⇒中指及び薬指を欠損。(1名が重傷)

事例②
【令和4年9月4日】 宮城県
イノシシの追い払いのため手持ち用ホルダーを使用せずに動物駆逐用煙火を使用したところ、製品が暴発。
⇒右手中指の挫創および熱傷。(1名が軽傷)

2. 可燃物への発火・延焼による事故

事例①
【令和4年4月・令和5年8月】 福島県(猪苗代)
動物駆逐用煙火によるものと思われる山林火災の発生。

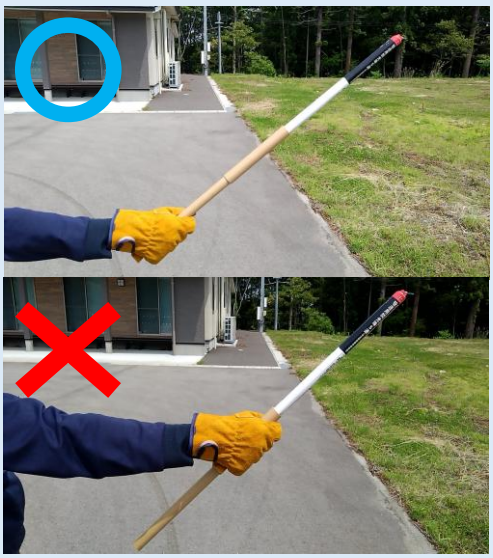
事例②
【令和6年5月5日】 長野県
カラスを追い払うために動物駆逐用煙火を使用したところ、林野の斜面で周囲の竹藪に着火し延焼。
⇒建物13棟を焼損(全焼10棟、半焼1棟、部分焼2棟)
⇒林野約2,900㎡および畑約700㎡を焼損

お問い合わせ先:大熊町　農業振興課　農政係
電話番号:0240-23-7137 (平日8:30～17:15の対応となります)

対策は？

1. ホルダーを使用しましょう

動物駆逐用煙火は、時として遅発・暴発することがあります。
ホルダーを使用することで、怪我を回避できる可能性が高まります。
また、正しい発射姿勢で使用することで、より怪我を回避しやすくなります。
この時、手袋やゴーグル、耳栓等を併せて使うことで、更に怪我を回避しやすくなります。



(↖)煙火がなるべく手や体から離れた位置になるように、できるだけ端を持ちましょう。
また、腕をしっかりと伸ばし、体からできるだけ離して構えましょう。(↗)

※その他、ホルダーの正しい使い方の詳細は、担当者にお問い合わせください。

2. 適切な保管・運搬をしましょう

煙火の遅発や暴発などの不具合を完全になくすことはできません。
ですが、正しい保管や運搬を行うことで、発生率を抑えることができます。

【保管】

- 保管時は、引火や盗難のおそれの低い場所に保管しましょう。
- ビニール袋に入れ、クーラーボックス等の密閉容器に保管しましょう。

※煙火は湿気に弱く、湿気によって火薬が変容すると、遅発や暴発の原因になります

【運搬】

- 運搬時は、車のダッシュボードや荷台に煙火を剥き出しのまま置かないようにしましょう。
- 専用ケースを使用するか、新聞紙やタオルなどで包み、煙火を保護しましょう。

※振動や衝撃によって筒が歪んでしまうと、遅発や暴発の原因になります。

お問い合わせ先:大熊町　農業振興課　農政係
電話番号:0240-23-7137（平日8:30～17:15の対応となります）

3枚目へ

過信禁物!!

獣除けに万能アイテムはありません
ー重要なのは組み合わせー

動物を追い払うという点において、煙火や爆竹は高い効果を期待できるアイテムです。
しかしながら、過信は禁物！
どれだけ適切な取り扱いをしていても、これらは決して、どんな場面・状況でも常に100%の効果を発揮してくれる**万能アイテムではありません。**
「煙火・爆竹を鳴らしたからこれで安心」と思わず、他の対策方法も併せて考え、どれか一つだけに頼り過ぎることのないようにしましょう。
複数の対策方法を組み合わせることで、より一層の効果を期待することができます。
ただし、それぞれが適切な運用をされていないと、望んだ効果とは逆の効果を生むこともあります。

過信しないで、とはいっても、
他に何をすればいいの？
複数の対策方法の組み合わせ…
何だか難しそうだなぁ…

過信しないために抑えておきたい幾つかのポイントを裏にまとめたよ。詳しくは裏面を見てね。

お問い合わせ先：大熊町　農業振興課　農政係
電話番号：0240-23-7137（平日8:30～17:15の対応となります）

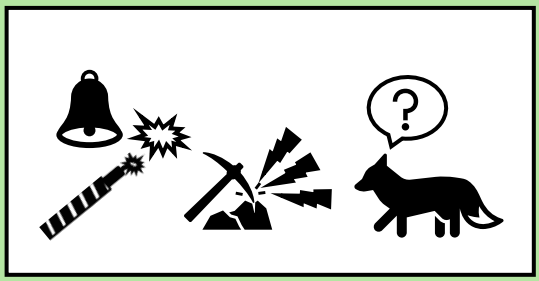
裏面へ

―過信してしまわないために―

～抑えておきたいポイント～

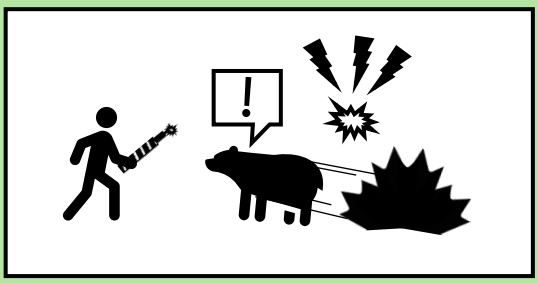
周囲の状況に気を配る!

① 周囲の音が大きすぎないか



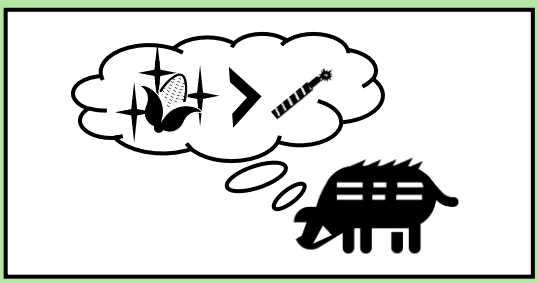
煙火やクマ鈴などの音を出す道具を正しく使っても、周囲の音が大きいと、音が掻き消されてしまって動物に届かないことがあります。
雨音や風で揺さぶられる草木の音や、林業や草刈りの作業音など、大きな音が響いている時は、周囲の気配や状況の変化により一層の注意を払うようにしましょう。

② 藪(生い茂った草木)が密集してないか



藪は動物にとって身を隠すための絶好の場所です。
藪が近い場所で大きな音を立てると、驚いた動物が思わぬ場所から飛び出してきて、人身事故になることがあります。
藪が多く、向こう側が見通せない場所では煙火の使用は控えましょう。
藪が繁茂してしまわないように、刈払うことも重要です。鳥獣対策だより2026.Vol.2もご参考ください。

③ 魅力的な物(誘引物)が近くにないか



動物は美味しい食べ物がある場所や居心地の良い場所など、大きな利益が得られる要因があると、そこに執着し、何度追い払っても繰り返しやってくることがあります。
残飯や廃棄作物は野外に放置しないようにしましょう
山林内へ匂いの強い食べ物を持ち込まない・放置しないようにしましょう
誘引物があれば取り除いておきましょう

お問い合わせ先:大熊町　農業振興課　農政係
電話番号:0240-23-7137（平日8:30～17:15の対応となります）

END